

新建あいち

2025.6月号

新建愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ(2022年4月～)

TEL 0568-34-7775

FAX 0568-34-7797

■ 新建 仕事を語る会

「認定こども園 寺子屋大の木」

23年7月から始まった幼保連携型認定こども園の設計、現在基礎工事終了。
園の保育理念は「共生・共保」、設計の空間コンセプトは「つながりづくり・
居場所づくり」と「木の空間づくり」。
久しぶりの福祉施設、アレヤコレヤの業務顛末のお話をします。(福田)

と き：5月24日(土) 13:30~16:00

ところ：新建愛知支部 金山会所

(名古屋市熱田区金山 1-2-8 ジャルダン金山 7-A 号)

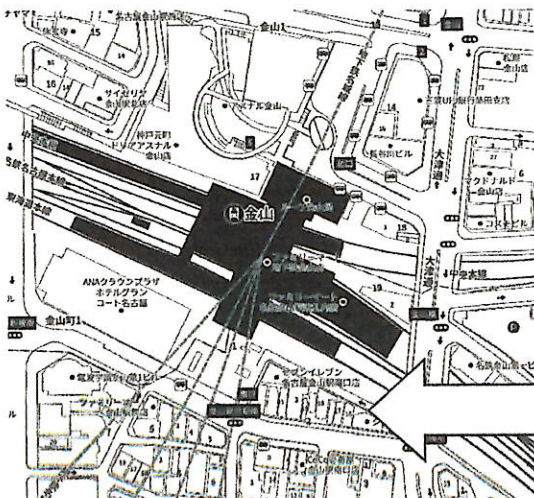
金山総合駅南口東へ徒歩1分 建物北側道路に面して玄関入口あり

報告者：福田 啓次 氏 (住生活環境研究所 福田設計)

参加申し込みは、5月23日(金)までに甫立に

電 話：090-5031-9815

メー ル：koichi@yb4.so-net.ne.jp



「横浜家系ラーメン金山」の東隣
北側道路に面して玄関入口があります

■「(仮称) 三井アウトレットパーク岡崎」が、今秋にオープン予定。 なぜここに立地したのかを推測する (連載第2回)

「アウトレットモール」は、主に服飾やブランド品の規格外品、旧モデル品等の商品を安く売る形態の店舗の集合体で、フードショップなども併設されていてちょっとしたテーマパークかもしれません。これが誘致したい人にとって、魅力の観光施設なのでしょう。

予定地は、名古屋市から南東に約 50 kmに位置し、静岡県浜松市からも西に約 50 km。両方の広域商圈の中間地点です。

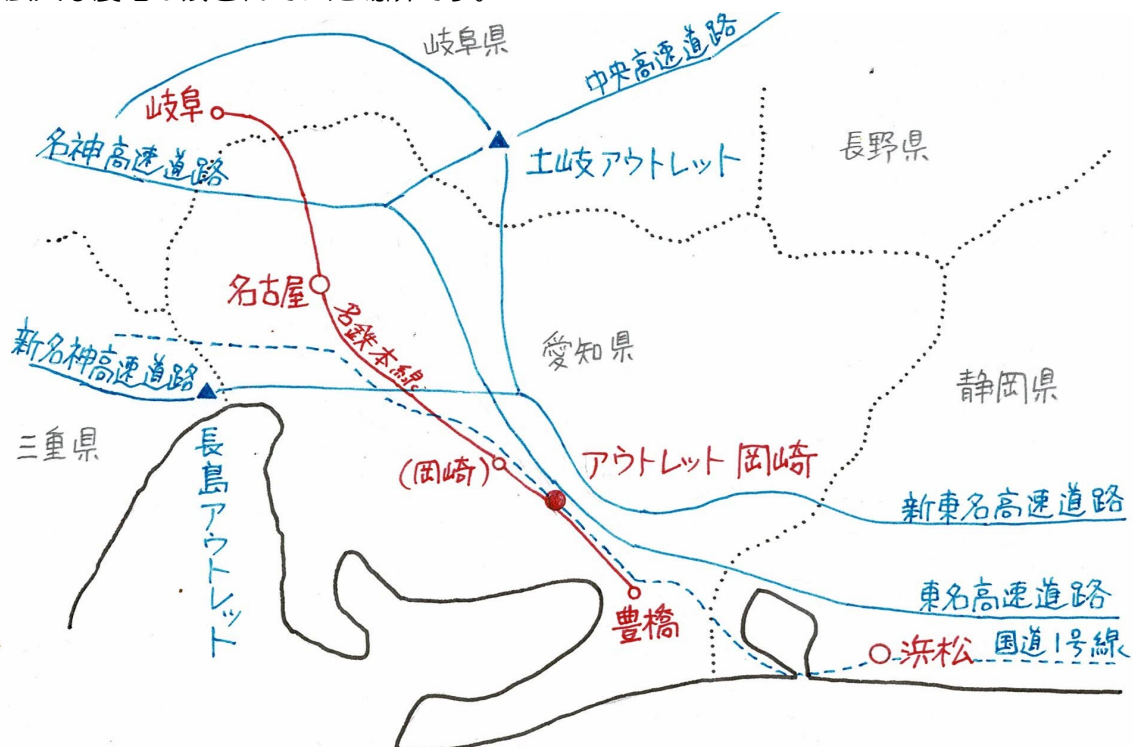
同業種の「アウトレットモール」からの距離は、「三重県長島アウトレット」からは東に約 50 km、「岐阜県土岐アウトレット」からは南に約 50 km、「静岡県御殿場アウトレット」からは西に 150 kmです。名古屋市を囲むように、ほどよい距離を保っています。

予定地は、南北を 400 ㍍級の山々に囲まれています。東西の道路は、東名高速道路、新東名高速道路、国道一号線が通り、予定地まで新東名高速道路岡崎東インターチェンジから 4 km、東名高速道路岡崎インターチェンジから 7 km、同じく音羽蒲郡インターチェンジから 7 kmです。両高速道路のインターチェンジから予定地までの途中は市街地がないのでアクセスが良いです。

鉄道では名鉄名古屋本線があります。

その他に立地の理由に考えられる大事なことは、農業の衰退、高齢化による農地の継承難があると思われます。小河川「鉢地川」に沿った延長 4 kmの低地にはもともと水田が広がっていたのですが、時には「休耕田」にはコスモス畑となった時期がありましたし、水田はやがて畑に転作されたようで、大豆が植えられていました。

広大な農地が残されていた場所です。



次掲載では、地元でどんな動きがあったのかをお伝えします。

(壬生 伸次)

■「居住福祉の考え方 その3」～居住福祉と生活資本の構築(176)

岡本 祥浩

「居住福祉の考え方」を広く理解していただくため、今回は一人ひとりに相応しい「居住地の資源」を事例で紹介したい。紹介する事例は、「岩手県紫波町」のオガールエリア(NHK 取材班(2024)『人口減少時代の再開発 「沈む街」と「浮かぶ街」』NHK 出版新書 724)である。

居住福祉の三つの構成要素

「居住」は、人の居場所を提供する「住宅」、「生活を支える居住地の資源や仕組み」、そして「生活を実現する生活資本」で構成される。「住宅」と「居住地の資源」は、見えるので認識しやすい。後半の「生活を支える資源を利用する仕組み」や「生活を実現する生活資本」は認識しにくい。今回は新たな街の目に見える「居住地の資源」の造り方を紹介するが、それらを活かした「生活を支える資源を利用する仕組み」や「生活を実現する生活資本」の一端も想像してもらえると嬉しい。

岩手県紫波町オガールエリア

岩手県紫波町は、人口 3 万 3000 人弱の小さな町である。盛岡駅から東北本線で南に 20 分ほどのところ、紫波中央駅が最寄りの駅になる。この駅前の 10.7 ㌥が事例の「オガールエリア」である。このエリアは長らく整備されずに放置され、「日本一高い雪捨て場」と揶揄されていたという。

現在、役場に近い当地区は整備が進み、飲食店や物販店、農産物の直売店、蔵書数約 11 万冊で音楽も流れる図書館、眼科・歯科・小児科などの医療機関、保育園、塾や英会話スタジオ、音楽スタジオ、ヘアサロン、トレーニング施設、ホテル、日本初のバレーボール専用コート、岩手県フットボールセンターなどが立地している。子どもとおじいちゃん、おばあちゃんが芝生で遊んでいたりと、スーツ姿で役場に向かう人がいたり、図書館で勉強する子どもがいたり、制服の高校生がおやつを買っていたり、親子が買物していたりと過ごしている。エリアの年間訪問者数は 100 万人にのぼると言う。

「ここに住んで良かった」

本書に「ここに住んで良かった」「この町に住みたい」と思った親子四世代の暮らしが紹介されている。その記述はまさに居住地の資源を一人ひとりに相応しく使いこなし、暮らしを実現しているように思える。「これからは思いっきり本を読みたい」という 92 歳の祖母、その思いを尊重する母にとって 11 万冊の図書館は真に宝だ。祖父は、東日本大震災の経験から役場の近さに安心感を抱く。娘夫婦と孫もエリアに立地する資源に魅かれて転入を決めている。子育て中の娘には、直売所やベーカーリーは魅力的である。更に特に小児科や歯科、紙芝居や絵本が借りられる図書館は日々の暮らしと安心に大きな影響を持つ。将来的にはサッカーやバレーボール教室、英会話スタジオ通い、と夢が膨らむ。このエリアでの居住を「住んでいるだけで安心感があり、自分の生活するところとしてすごく気に入っている」と表現している。

暮らしの一コマ

多世代で同一地域に暮らす親族の暮らしが次のように描写されている。毎日夕方になると、娘家族は食材を持って祖父の家に向かう。5 分も歩くと祖父が玄関から迎えに来る。祖母と娘が食事を用意する間、孫を囲んで祖父、息子が走り回る。四世代の楽しいひと時が過ごされる。

NHK 取材班のオガールエリアの記述は、居住地域に立地する様々な資源が、四世代世帯の思い思いの暮らしを実現している様子を紹介している。これは一人ひとりを主人公に街を創ったこと、そしてそれを継続している成果だと思う。将来の姿がとても楽しみな事例である。

(中京大学教授、新建会員)

歴史から見た町名

氷室町 (南区)

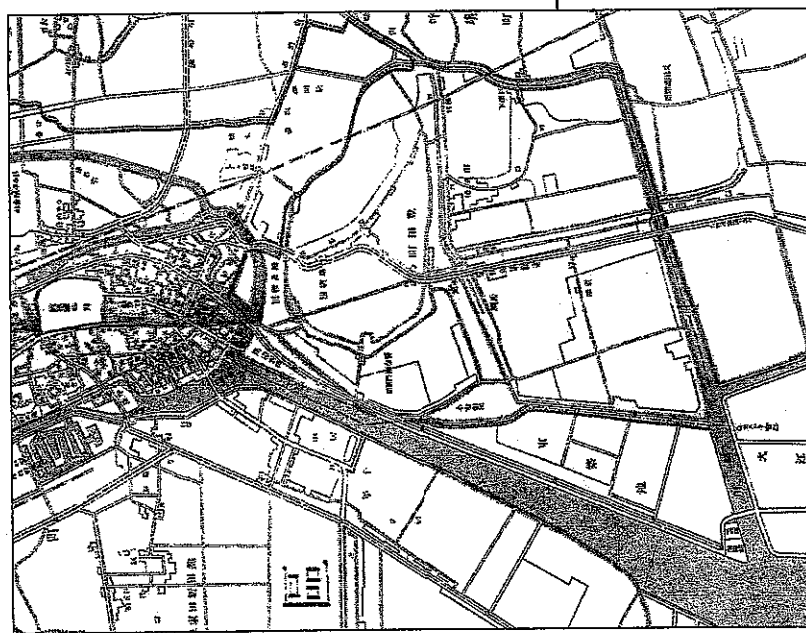
南区の東海通と名鉄常滑線が交差するあたりの南西に氷室町と呼ばれる地域があります。氷室とは、広辞苑によれば「水を夏まで貯蔵しておくため特別に装置した室(むろ)または山かげの穴」とあります。ところがこの南区の氷室町は広辞苑にある氷室とはまったく関係がなく、名古屋末広町(現中区栄3丁目)の若宮八幡社神官氷室長冬の名に由来します。

安政3年(1856)山崎川は当時、現在の祐竹橋付近から右に折れて熱田の海に流れていました。このために、山崎川の土砂が堀川沿岸に堆積し、熱田の港の機能に大きな障害となっていました。これを防ぐため、山崎川の流路をやや南に移すことにしました。これが現在の山崎川の流れです。流路の変更によって生

まれた元の川跡、東西1700m、南北60m×200mを新田とする作業をおこなったのが、氷室長冬でした。ところが、新田の開発を行ったものの、この新田は砂が多く、思うような米の収穫ができなかったため、尾張藩は40年の間年貢を免除する措置をとったと云われています。図に示したものは、大正10年(1921)に測量された現在の南区の地図の一部ですが、新しい山崎川の流路とともに、旧河川の跡を知ることができ、ここに氷室新田および氷室と記されているのを見ることができます。

現在の氷室交差点北西にある若宮八幡社の境内に、「氷室長冬開墾地」の碑があり、この碑の裏面には、新田の開発にたずさわった10人の名前が刻まれています。

す。今では氷室新田の跡は、高層の市営氷室荘を中心とした住宅地に変わっており、この地域の歴史を知ることができるのは、「氷室」の地名からのみとなっています。



大正10年名古屋市長官市全図より

歴史から見た町名

桜台町 (南区)

(現 桜台1丁目・桜台2丁目)

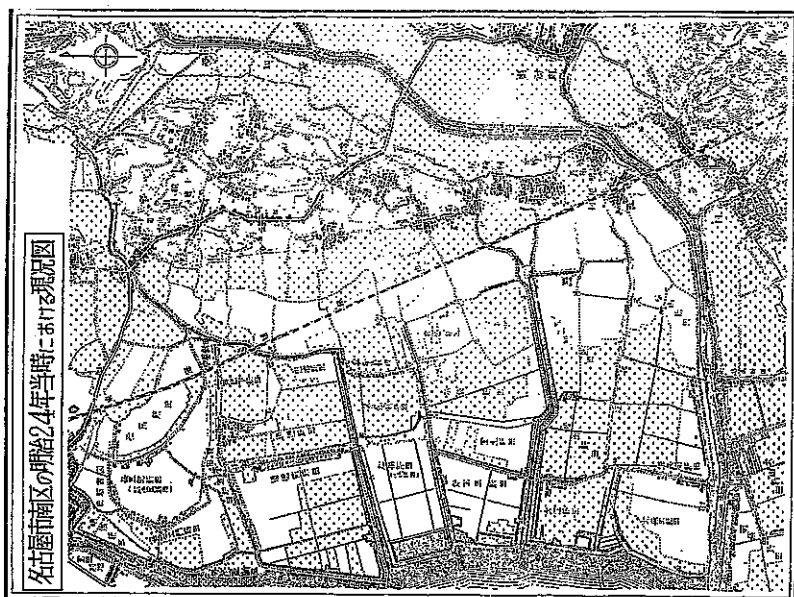
桜台町は昭和61年までの町名で、この時、桜台町、才仙町と鯛取通はじめ5町の一部の合併によって、今では桜台1丁目 桜台2丁目となっています。南区は江戸時代から新田の開発がすすみ、新田を基にする町が大部分を占めております。南区のもともとの集落が存在していたのは、呼続から星崎辺りの熱田層と呼ばれる丘陵地でした。この辺りは西はあゆち潟、東は鳴海潟と呼ばれる浅瀬の海に挟まれ、熱田の方から見渡すと松の生い茂った島に見えることから松巨嶋（まつこしま）と呼ばれていました。今でも地図を見るとくさび状に南に突き出た地形を知ることができます。この地には、

古くから山崎、戸部、桜、笠寺、本地、南野、牛毛、荒井、新屋敷の九つの村が存在していました。桜村もその一つで、古くは尾張国愛智郡作良郷（おわりのくにあいちこおりさくらこう）と呼ばれていました。これが現在の桜と呼ばれる基になっています。この辺りは、中世には鎌倉街道、江戸時代になって東海道や塩付街道が通るようになり、交通の要所でもあったとされています。近くには桜本町、本桜田町、西桜町等があつていずれも中世以前の桜村に端を発していると思われます。

昭和5年に桜土地区画整理組合がつくられ、この一帯の区画整理がすすみ、鯛取通沿いの桜並木は

この時に植えられ、今では桜の名所にもなっています。

明治24年当時の現在の南区を示す地図です。中央右上のくさび型の部分が中世から集落があつた所です。



■ 新建愛知支部 2025年4月 支部幹事会だより

4月16日（水）19:00～21:00（オンライン）

リモート参加者／入谷、黒野、奥野、中森、福田、甫立、壬生

- (1) 5月24日（土）午後に「仕事を語る会」を開催します。自分の仕事の報告者を募集しています。
- (2) 4月からの建築基準法の改正などについての意見交流会を開催しようと思います。
- (3) 新建全国大会に向けて、愛知支部総会の準備をします。皆さんからの意見を募集致します。
- (4) 皆さまから、企画・見学会案を募集します。楽しく勉強と交流のできる企画をつくりませんか？
- (5) 職人不足などで困らない為に、事業の組織化検討を進める事を決めて、職人集団と連携をします。
- (6) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化をしています。
- (7) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。

今後の幹事会は、5月21日（水）6月18日（水）7月16日（水）午後7時からと確認をしました。



■ 「居住福祉」の諸相

岡本先生のお話&ワークショップ 第2回 6/7（土）

建築とまちづくり誌2023年1月から、2024年6月号まで全17回、中京大学の岡本祥浩先生に、「居住福祉」の諸相、を連載いただきました。また新建叢書の作成を進めていただいているところです。



連続企画の2回目は会場を錦二丁目にうつし、6月7日（土）に開催します。前回の高齢者住居につづき、今回は「生活資本の構築」に関する事例などお話しいただき、みなさまと意見交換したいと思います。安全に安心して住むとは？建築以外のお仕事されている方々もふくめて、ぜひお気軽にご参加ください。

■会場：錦二丁目・スペース七番（スペース3）

名古屋市中区錦二丁目7-7オリマチ錦1-A（喫茶七番の2階）

■日時：2025年6月7日（土曜日）13:30～16:00

■資料：居住福祉の諸相4～5回分 ■参加費：無料 ■人数：15名程度まで

■参加申込 kuronoakihiro@yahoo.co.jp 090-4270-5197（黒野まで）

※新建会員外の方も参加可能です